

「審査員講評」

表彰式は去る7月5日、東京・品川の新高輪プリンスホテルで行なわれました。

岡田委員長を始めとする審査委員会よりコンペティション全体について講評も発表され、式後のパーティーでは入賞作品を囲んで審査員と入賞者の歓談が盛り上がりました。

ここでは、当日いただきました審査委員会の講評を紙面の都合上、抜粋してご紹介いたします。

作品例部門金賞の牛田+他一名案は、空間デザインに対して使用された素材が単に円形ガラスブロックのみでなく、タイル、衛生陶器などに至るまで統一あるデザイン表現に見事に参加している。サニタリーが家族にとっての公共空間であることは論をまたない。その他特に公共にかかわるものとした藤木+他一名案のトイレ、藤本案の環境を整える壁、湯澤案の工場地帯に清楚な町並みを提案するフアサードなどが注目された。提案部門金賞の松井案はガラスブロックに対する見方を変えるような発見が含まれている。第一は水に浮かくと、第二は自由にうねる面をもち得ることである。そのような発想をどう使うかということだが、海底に沈む負の遺産に対する記念的シンボルとしてデザインされている。

◆岡田新一

(岡田新一建築事務所)



作品例部門で驚いたのは、伊藤案のHOTEL POLUNYAがあったことだ。やはりダントツにうまい。ガラスブロックの重さを消す意味でも、抽象性を表現する意味でも、コンセプト、デザイン、ディテール、すべてよいと思った。本来は金、銀、銅に入れるということとでなく特別賞のようなものが妥当であったかと思う。提案部門はガラスブロックにもまだ可能性があるということも教えてもらった。松井案のCOVERINGはガラスブロックは浮くかという問いや、海や水の上を歩くという楽しさや水を通して光と影の提案があった。坂案のSAMPLING BLOCKでは、私はガラスブロックは表面が光り過ぎるので味気ないと思っていたので、その表情や内部を汚してヒューマンなものを入れるという発想を買った。

◆新居千秋

(新居千秋都市建築設計)



応募作品全体にレベルの高さを感じた。提案部門は難をいえば建築物又は工作物の主たる用途を限定・意識した為か現実感が表面化して堅苦しさが残った作品が多くみられた。金賞の松井案は、一際意外性強くガラスブロックが水に浮く事を提案。波間に揺らぐガラスブロックを透過した個々の光が水中で交差しあうファンタジーに夢をみた。作品例部門で共通する事はメーカー推薦の標準ディテールに則った作品が大半で期待感半減。設計側のアイデアをもっとメーカー側に提案すべきだ。メーカーが製品を売るだけで良しと考えない様に、ガラスブロック愛好家は良い意味でメーカー苛めに徹しよう。金賞の牛田+フインドレイ案は、小粒の作品ながらオプトの特色を巧みに生かし光と影の小宇宙が楽しい。

◆大杉喜彦

(大杉喜彦建築総合研究所)



提案部門の内容は種々に亘った。建築物、地下空間、迷路、空中歩廊、空中庭園、公衆便所、階段、塔状建築物、橋、ミニメント、その他である。森十他六名案はエナジーチューブと呼ばれるガラスブロックによるチューブ構想で地下鉄駅舎である。光の演出がなされ、今までにない明るい地下空間が登場する。井村十他十二名案はガラスブロックの新開発といえよう、階段を特殊形状のガラスブロックで構成していく。ユニークなアイデアは高く評価される。その他、ガラスブロックの中に何かを埋めるもの、三角形のガラスブロック、工業化を意図したもの等、アイデア豊富であった。作品例部門には力作揃いの作品が多かった。江川十他一名案は常夜灯として設計されており、ことのほか夜景の美しいものである。

提案部門は提案の内容が大きく分けてふたつあったように思う。ひとつは現在あるガラスブロックおよびその技術を使ってその表現方法の可能性を追求したものと、もうひとつは技術的な提案をしたものである。全体では面白い表現を求めたものが多く、その形態や空間のデザイン性を重視したものがかなりあった。技術的な面ではブロックの形態やモジュール等の提案があったが、ブロックの中の空洞の部分の利用としてその中にもものを入れる案が数点あった。アイデアとしては面白いと思う。作品例部門では計画のはじめの段階から、ガラスブロックをテーマにして、それが計画のコンセプトになっているものも多かったが、建築のコンセプトは別にあって、ガラスブロックがそれを補っているものも多かった。

作品例部門では、ガラスブロックを採光窓として扱うというよりも、光る壁を意識した作品が多く目立った。そんな中で金賞の牛田十他二名案は円形ガラスブロックを曲面の空間にランダムに散らし、採光窓として扱った作品であり、工業製品を有機的空間とうまく融合させた秀作である。提案部門では興味深い提案が数多く寄せられたが、全体としては光る壁や床を意識したものが多く、従来のガラスブロックの概念や扱いを越えるものではなかった。が、金賞の松井案はガラスブロックの概念を根底から覆した。着眼点もさることながらコンセプトアルートの作品性も優れている。銀賞はそつのな目で目立った。また、住作の坂案のSAMPLING BLOCKは賛否両論に分かれ大議論の交わされた問題作である。

このたび第一回NEG空間デザイン・コンペティションへガラスブロックンを行いましたところ、作品例部門、提案部門合わせて五九四件の多きにのぼる応募作品をいただきました。主催者の一人として、厚く御礼申し上げます。特に入選作品には、ガラスブロックを通して得られる光と影を巧みに利用した新しい製品開発、未開拓分野への応用など、優れたご提案が沢山含まれておりました。ガラスブロックはまだ大きな可能性を含んだ建材であるとして改めて意を強くした次第でございます。貴重なご提案を明日への製品づくり、用途開発に生かしていくのが私共メーカーの使命と考え、今後とも努力して参る所存でございます。

◆須賀好富

(近畿大学理工学部教授)



◆土岐新

(土岐新建築総合計画事務所)



◆若林広幸

(若林広幸建築研究所)



◆小島隆

(日本電気硝子専務取締役)

